

生涯発達心理学

単位数	履修方法	配当年次
4	R or SR	1年以上
科目コード	FD2502	担当教員
		木村 進(上) 中村 修(下)



■科目の内容

発達を、人の一生における変化として捉える考え方は比較的新しいものですが、この科目においては、「生涯発達」という視点から発達について基本的に理解することを目指しています。発達ということを現象的に捉えるのは、さほど難しくありませんが、ここでは、その基本にある発達理論の理解を土台として、「発達は積み重ねである」ということの意味を具体的に理解することが目標です。

たとえば、一人の老人を理解しようとする時に、その人の現在を理解するだけでなく、その人がこれまでどう生きてきたかということを理解しなければ十分とはいえません。逆に言えば、子どもから老人まで生涯を見通すことなのです。

■到達目標

- 1) 「生涯発達」の意味を理解し、自分の発達の経過を具体的に振り返ることができる。
- 2) 「発達」は上昇的变化と下降的变化として説明されることを理解し、自分が経験してきた変化について具体的にとらえることができる。
- 3) 発達をもたらす要因は何であるかについて理解し、教育や保育、あるいは育児において、具体的な働きかけのあり方について考えることができる。
- 4) 発達のそれぞれの段階における特徴を理解し、自分および自分の周りにいる人々の具体的な姿に結びつけて説明することができる。
- 5) 「発達は積み重ねである」ということについて、「発達課題」という視点から具体的に説明することができる。

■教科書

平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅰ ライフサイクル』ミネルヴァ書房、1993年

■在宅学習30のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	発達とは① (序章)	発達とは、生涯発達 キーワード：発達、生涯発達、上昇(下降)的变化、完態、フロイト、ピアジェ	①発達についての考え方を理解した上で、生涯発達という考えを理解する。②生涯発達の流れについて基本的に理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	発達とは② (序章)	ライフサイクルからみた発達, 人間の発達の特殊性, 発達加速現象 キーワード: ライフサイクル, ネオテニー, 就巢性, 発達加速現象, 個性化	①人間の発達の特殊性について理解する。②ライフサイクルからみた発達という考え方を理解する。③エリクソンの8段階の意味を理解する。④発達加速現象を通して発達に対する社会的影響を理解する。
3	プロセス1: 発達のプロセス (5章)	発達における指標とメカニズムについての理解 キーワード: 発達の指標, 発達のメカニズム, 発達到達年齢, 個人差, 発達の順序, 正常発達	発達における「いつ」「いかにして」という視点を理解する。
4	プロセス2-1: 乳児期の発達① 「新生児期」 (5章)	生まれただばかりの乳児(新生児)の理解 キーワード: 新生児期, 多相性睡眠, 驚愕反応, 共鳴動作, モロー反射, 原始反射, 母子関係, 刻印付け	①新生児の状況について理解する。②新生児期の運動について理解する。③母子関係の始まりについて理解する。
5	プロセス2-2: 乳児期の発達② 「乳児期」 (5章)	乳児期の発達の理解 キーワード: 乳児期, 随意運動, 探索反射, ATNR, 言葉, 指さし, 喃語, 言語発達, 愛着・信頼関係, 人見知り, 分離不安	①原始反射から随意運動への流れを理解する。②認知発達と言語発達の関連性を理解する。③言語発達の流れとその土台となるものを理解する。④愛着・信頼関係について理解し, その影響について考える。
6	プロセス3: 幼児期の発達 (5章)	①それぞれの側面の発達についての理解 ②幼児期の状態と乳児期の状態を比較してその違いを確認 キーワード: 五感, 相貌的知覚, アニミズム, 二語文, 吃音, 反抗期, 自我意識	①主観的な認知について理解する。②言語発達の流れについて理解する。③反抗期の意味について理解する。
7	プロセス4: 児童期の発達 (5章)	①児童期のもつ意味について理解 ②言語の機能についての理解 ③児童期の思想についての理解 ④友人関係の意義についての理解 キーワード: 過渡期, 巧緻運動, 思考の道具, 聴覚記憶・視覚記憶, 倫理的・客観的思考, ギャングエイジ	①児童期が幼児期の延長上にあり, 児童期の終わりは成人期の入口であることを理解する。②中心的な人間関係が, タテの関係からヨコの関係に移行することの意義を理解する。
8	プロセス5-1: 青年期の発達① (6章)	①青年期の意味についての理解 ②青年期の心理的特徴についての理解 キーワード: 周辺人, 青年期の延長, 思春期, 性的衝動, 独立, 社会的役割, 価値観	①周辺人としての青年の位置付けを理解する。②青年期の始まりと終わりの要因を理解する。③青年期の心理的特徴を自分の経験に照らして理解する。
9	プロセス5-2: 青年期の発達② (6章)	①青年期の心理的発達についての理解 ②自我同一性の確立についての理解 ③確立以外の自我状態についての理解 キーワード: 依存・反抗, 精神的離脱, 自我理想, 性同一性, 悲哀感・空虚感, 自我同一性, 確信, 忠誠, 拡散・混乱, 予定同一性	①青年期の心理的発達の発達の流れを理解する。②前期青年期から後期青年期までの, それぞれの時期の特徴を理解する。③自我同一性とは何かを理解した上で, 自我のそれぞれの状態の関連性を理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
10	プロセス 6-1: 成人期前期の発達 (6章)	①成人期の意味について、青年期との関連での理解 ②成人期前期の発達課題についての理解 ③「親密性vs孤立」ということについての理解 キーワード: 成人期, 職業生活へのコミットメント, 親密性, true twoness	①成人期前期の発達課題を具体的に理解する。②「親密性vs孤立」ということの意味を、現実生活に照らして理解する。③成人期後期の発達課題と照らし合わせながら、成人期前期の意味を考察する。
11	プロセス 6-2: 成人期後期の発達 (6章)	①成人期後期の意味についての理解 ②後期成人期の発達課題についての理解 ③「生殖性vs停滞」の意味の理解 ④中年期の危機についての理解 キーワード: 中年期, 生殖性, 自己愛, 社会的役割, 心理的葛藤, 死の受容	①人生の半ばとしての成人期後期の意味を理解する。②生殖性の意味を、的確に理解する。③中年期の危機について「空の巣症候群」について調べて理解する。 ※空の巣症候群については、文献等で調べること。
12	プロセス 7: 老年期の発達 (6章)	①老年期の意味についての理解 ②「統合vs絶望」の意味の理解 ③老年期の過ごし方・サクセスフルエイジングについての考察 キーワード: 老年期, 別れと喪失, エポケー, 休止, 生成, 統合, サクセスフルエイジング	①生涯発達ということをもとに老年期を理解する。②老年期の過ごし方について、発達課題を踏まえて考察する。 ※サクセスフルエイジングについては、文献等で調べること。
13	発達段階と発達課題 ①: 発達段階 (4章)	①発達段階とは何かの理解 ②具体的な発達段階の理解 (成人期以降の発達段階も含めて) ③発達段階という考え方の問題点の理解 キーワード: 発達段階, 一般的な発達段階区分, 発達段階論, 不連続性, 文化的普遍性, 領域一般性	①発達段階を区別することの意味を理解する。②具体的な発達段階について、区別の基準となっているものとの関連性で理解する。③成人期以降の発達段階について、詳しく理解する。④発達段階に区別することの問題点を理解する。
14	発達段階と発達課題 ②: 発達課題 (4章)	①発達課題とは何かの理解 ②ハヴィガーストの発達段階に関する考え方の理解 ③エリクソンの「心理・社会的危機論」の理解 ④発達課題についての考え方の問題点の理解 キーワード: 発達課題, 身体成熟, 文化的圧力, 価値意識, 心理社会的健康, 心理社会的病態, 理想的発達像	①発達課題を設けることの意味を理解する。②ハヴィガーストの発達課題を理解し、同時にその問題点も理解する。③エリクソンの考え方を理解し、その問題点も理解する。
15	前半の振り返り	それぞれの時期の発達の特徴についてポイントをまとめる	新生児期, 乳児期, 幼児期, 児童期, 青年期, 成人期前期, 成人期後期 (中年期), 老年期それぞれに、発達の特徴を短い言葉でまとめる。
16	メカニズム 1-1: 生物学的側面 ① 脳の発達 (2章)	①脳の構造についての理解 ②脳の発達についての理解 ③脳の機能についての理解 キーワード: 脳脊髄液, 大脳半球, 脳幹, 小脳, 脳葉, 神経細胞, シナプス	①脳の構造については、テキストに書かれていること他に神経細胞の図を調べておく。②脳の機能については、同じく、脳地図を調べておく。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
17	メカニズム 1-2: 生物学的側面 ② 遺伝の仕組み (2章)	① 遺伝とは ② 遺伝による障害の理解 ③ 染色体 (異常) についての理解 キーワード: 遺伝, 染色体, メンデルの法則, 優性遺伝, 劣性遺伝, 染色体異常	① 遺伝の仕組みについて基礎的な理解を図る。② 遺伝による障害を理解する。③ 染色体の異常について理解し, それによる障害について理解する。
18	メカニズム 2-1: 心理・社会的側面 遺伝と環境 (3章)	① 発達に影響する遺伝的要因の理解 ② 遺伝的要因を実証する研究方法についての理解 ③ 環境的要因とその研究方法の理解 キーワード: 家系研究法, 双生児法, 異環境双生児, タブラ・ラサ説, ワトソン	① 発達における遺伝の影響と環境の影響について具体的に理解する。② 影響を研究する方法について理解する。③ 遺伝と環境の相互作用ということについて理解する。
19	メカニズム 2-2: 心理・社会的側面 成熟と学習 / 初期学習 (3章)	① 成熟と学習およびその関連性についての理解 ② レディネスについての理解 ③ 初期学習 (初期経験) の理解 キーワード: 成熟, 学習, レディネス, レディネス待ち・促進, 初期学習, 刻印づけ, ホスピタリズム, マターナル・ディプリベーション	① 成熟と学習の違いを理解した上で, その関連性を理解する。② レディネス待ち・促進の考え方から早期教育のあり方について考察する。③ 初期学習としての母子関係について考察することを通して, 初期学習の意味を考える。
20	メカニズム 3: その他 胎児期 / 発達の法則 (3章)	① 胎児期の発達を理解する ② 発達の法則を理解する キーワード: 胎児期, 胎児性アルコール症候群, 周産期, 周産期障害, SFD, 発達の法則	① 胎児期の発達について理解し, それを踏まえて母体のあり方について考察する。② 発達の法則については, 特に, その連続性および個人差について, しっかり理解する。
21	現代の発達環境 1: 家族と家庭 / 地域社会 (7章)	① 発達に影響する中心的な環境という意味での家庭の理解 ② 今日の特徴の理解 ③ 地域社会の現状の理解 キーワード: 血縁, 情緒的結合, 発達環境, 育児不安, 養育機能, 個別化, 地域社会, 都市化, 三間, 共同体	① 家庭とは何か, その機能について基本的に理解し, 現代の特徴について考察する。② 家庭と地域社会との関連性を, 子育てという視点から考察し, 現代的課題についても考察する。
22	現代の発達環境 2: 保育所・幼稚園 / 学校 / 社会 (7章)	① 発達における幼稚園・保育所の役割の理解 ② 子どもの発達環境としての学校の理解 ③ 子どもの発達における社会の役割の理解 キーワード: 幼稚園, 保育所, 心身の調和的発達, 人間形成の基礎, 応答的環境, 人間形成, 学歴重視, モラトリアム, 情報化社会	① 発達への働きかけの場としてのそれぞれの機関 (幼稚園・小学校など) の役割を理解する。② 発達に対する影響について理解する。③ それぞれの機関の現代的な問題や課題について理解する。
23	現代女性のライフサイクル 1: 現代女性 (8章)	現代女性のライフサイクルの特徴の理解 キーワード: ライフサイクル, 出産期間, ディンクス, デュークス, 人口動態, 晩婚化, キャリア, 合計特殊出生率, 1.57ショック, 少子化, リプロダクティブライト	① 女性のライフサイクルについて理解した上で, 現代女性のライフサイクルの特徴を考察する。② リプロダクティブライトという視点から, 女性に関する今日的課題について考察する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
24	現代女性のライフサイクル2：女性と男性（8章）	①心理学的性差の理解 ②性役割獲得の過程の理解 キーワード：生物学的性差，心理学的性差，性役割，性役割期待，性別しつけ，男女平等意識	①生物学的性差，心理学的性差を理解する。②心理学的性差（男らしさ・女らしさ／ジェンダー）の発達を理解する。③性差と男女平等との兼ね合いについて考察する。
25	現代女性のライフサイクル3：女性の発達（8章）	女性としての生涯発達の理解 キーワード：伝統的な性役割観，性別期待，性役割分業観，男女平等教育，第2次性徴，自己実現，更年期，介護休職	それぞれの時期（幼児期～青年期～成人期～老年期）における女性の育ち（発達）の特徴を理解した上で，生涯発達という視点から流れをまとめる。
26	発達の臨床1：発達臨床の意味と発達の障害（9章）	①特別な発達ニーズの理解 ②特別な発達ニーズの臨床的理解 ③発達の障害とその臨床的理解 キーワード：社会化，個性化，特別なニーズ，発達の臨床，発達の障害（心身障害），診断，中枢神経系，教育臨床	①特別な発達ニーズとは何かについて理解しその臨床について考察する。②発達の障害について理解し，機能の障害のいるいるについて基礎的な理解を図る。③発達の障害の臨床について理解する。
27	発達の臨床2：心の問題／老年期の問題（9章）	①心の問題とその臨床についての理解 ②老年期に起こりがちな問題とその臨床についての理解 キーワード：心的防衛，耐性（トレランス），母子関係，信頼感，自我の芽生え，第一反抗期，アイデンティティ，老化現象性，認知症，自分史	①それぞれの時期の特徴と起こりがちな心の問題を理解する。②それぞれの時期の心の問題に対する臨床のあり方について理解する。③それぞれの時期に起こりがちな問題を統合的に理解し，発達は積み重ねであるということについて考察する。
28	発達理論の歴史1：子ども観・発達観／発達心理学の流れ（1章）	①子ども観・発達観の変遷の理解 ②発達心理学の歴史の理解 キーワード：輪廻思想，母子心中，小さな大人，躰，合理論，経験論，進化論，児童研究運動，行動主義	①子ども観・発達観について，日本と西欧社会とを対照して理解する。②発達心理学の土台となる思想について，それぞれの研究者の考え方を理解する。
29	発達理論の歴史2：代表的な発達理論／現代の発達心理学（1章）	①ピアジェの発達理論の理解 ②エリクソンの発達理論の理解 ③社会的学習理論の理解 ④現代の発達心理学の動向の理解 キーワード：同化と調節，シエマ，均衡状態，心理・社会的危機，オペラント学習，モデリング，攻撃性，愛他性	①同化・調節という概念を踏まえて理解する。②心理・社会的危機という視点から理解する。③パプロフの実験から派生した行動主義心理学を理解した上でモデリングを理解する。④現代の発達心理学の視点について理解し，発達心理学とは何かについて考察する。
30	後半のまとめ	①前半に学習した生涯発達の流れについて再学習し，自分のこれまでの発達を振り返って当てはめて考察する ②発達の臨床について，自分の経験あるいは周囲の人々の事例に即して，具体的に考察する	①せっかく発達について総合的に学習したのだから，自分のこれまでの発達を振り返ってより具体的な理解を促進する。 ②障害にせよ心の問題にせよ，身の回りの出来事と結びつけて考えてみることによって，より具体的に理解することができると。

■レポート課題

1 単位め (担当) 中村 修	発達とはどういうことか。発達についての考え方の変遷を踏まえて、発達とはどういうことかについて考えなさい。最終的には「生涯発達心理学」という考え方が出てきた経緯について説明しなさい。
2 単位め (担当) 中村 修	成人期の発達課題を「役割の変化」という視点から述べなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
3 単位め (担当) 木村 進	発達段階についてのいろいろな説を述べ、それに合わせて、発達課題（エリクソン／ハヴィガースト）について論じなさい。
4 単位め (担当) 木村 進	老年期をどのように捉えるかということについて論じなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題（論述式）・web解答可（客観式）

※この科目は2名の教員で担当しています。1・2単位め＝中村修先生、3・4単位め＝木村進先生です。再提出になった場合は、1・2単位めと3・4単位めは、それぞれ別々のレポート用紙を利用して提出してください。

■アドバイス

レポートを書き始める前に、教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくということが第一に重要です。該当する箇所は1か所とは限りませんから、課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。

『学習の手引き』序章に「レポートの書き方」を載せてありますので、もう一度読んで、作業手順を確認してから、レポート作成にとりかかってください。

たとえば3単位めの課題は、教科書をよく読めば書けるはずですが、また、4単位めの課題は、いわば応用問題です。教科書や参考書の中から必要な部分を抜き出し、課題にそってそれを組み立てるという作業が必要です。そのためには、全体として何を書くかというストーリーを最初に描いておくことが大切です。

1単位め アドバイス

この課題は、教科書の「序章」と「1章」の内容を踏まえて考えてください。レポートの内容は、①発達とはどういうことか（発達についての定義と解説） ②発達についての考え方がどう変わってきたか ③生涯発達心理学とはどういう分野かの3つの要素を明確にするようにしてください。

①については、教科書にも定義がありますが、他の文献も参照して、発達とはどういうことなのかについて、いろいろな説を紹介し、解説してください。

②については、主に教科書の内容をまとめて、考え方の変化を明確にしてください。

③については、教科書には明確に説明されていませんので、他の文献を参考にするか、あるいは、教科書の内容から類推してください。なお、①から③はあくまでレポートの要素であって、レポート内の「項目立て・小見出し」とする必要はありません。この1単位めの課題では、発達についての考え方の変遷を

ふまえて、発達とはどのようなことかを説明することを求めています。過去に言われていた定義とその問題点を指摘しながら、現在の生涯発達心理学で用いられている発達の捉え方へと展開していくことが望ましい形式となるでしょう。

2単位め アドバイス

人は青年期から成人期にかけて子どもから大人への移行を経験し、その主たる役割は学生から社会人へ変わっていくことになります。それでは、成人期ではどのような役割の変化に直面することになるのでしょうか？

この変化には、「獲得する」と「喪失する」ことの両面があります。また、これに加えて、いったん得た役割であっても果たすべき内容が変わるものもあるはずで、ここで、テキストに従えば、成人期という時期もさらに前期・後期に分けて考えられています。そこで、課題に答える際にも前期・後期に分けて考えてみてください。もちろん単に別々のものとして考えるのではなく、「前期での役割が後期には……」というような連続性も考えてみてください。

この役割の変化と発達課題の関連を考えると、まず、ある発達課題の達成によって得られる役割がある、と考えられるわけです。そして、以前の発達課題の達成によって得た役割も、次の発達課題を達成するために「役割の見直し」を行わなければならなくなることが考えられるのです。

ある役割が獲得されその後役割内容が変わっていく、という「流れ」でみることによって発達課題間の関連も理解しやすくなると思います。なので、レポートをまとめるにあたっては、まず①成人期前期と後期の発達課題を整理してから、②ある特定の役割に絞ってそれが成人期の中でどのように変化していくのか、についてまとめてください。さらに展開させるのなら、③役割の変化に適應する際に生じる発達の・心理的問題について述べてください。

なお、課題が難しい・考えづらいという方は、特に「親役割」「職業人役割」を中心に考えてみてください。

3単位め アドバイス

この課題のレポートを完成させるためには、まず、次のことについて教科書や参考書で調べてみてください。

- (1) 発達段階とは何か、また、発達段階を区切ることについてのいろいろな研究者の考え。
- (2) 発達課題とは何か、エリクソンおよびハヴィガーストの発達課題についての考え方とその具体的内容（エリクソンの心理社会的危機（発達課題）については、教科書のいろいろなところに部分的にふれられています。それらを総合して、**発達課題の表**を完成させてください）。

この準備が終わったら、**代表的な発達段階説を選んで**、その段階に合わせて、エリクソンとハヴィガーストの発達課題を記入します（一覧表にしてください）。

以上が、第一段階です。この表をもとにしながら、以下の内容のレポートに仕上げてください。

- (1) 1ページめ：上記の表。一覧表はレポート用紙の1ページめに入りきらない場合、別紙に記入し開いたときに見やすいように折り曲げ、レポート用紙1ページめに貼り付けて提出してください。かなり細かい字数の多い表になりますが、表の字数は176文字（手書き用レポート用紙1ページめの字数）と換算してください。

※この表は手書きでもワープロ・パソコン印字でも可です。

※ワープロ・パソコン印字提出の場合、この表はA4判用紙に作成（表のみ手書きも可）してください（字数・書式自由）。

- (2) 2～8ページめ（ワープロ・パソコン印字の場合は2～3ページめ）：下記(a)～(c)のような内容を含めてまとめてください（見出しをつけるとよいです）。
- (a) 発達段階とは何かということと、いろいろな発達段階説（教科書の内容をただ写すだけでは不十分です。参考文献等の内容を検討して、より充実したものにしてください）
- (b) エリクソンとハヴィガーストの発達課題（心理社会的危機）についての考え方を踏まえて、発達課題とは何か。
- (c) エリクソンの心理社会的危機を踏まえて、人間の生涯のあるべき姿についてまとめる。

4単位め アドバイス

高齢化社会とか高齢社会とかの表現をよく目にしますが、老人に対する社会的関心が高まっているということです。この課題は、老年期というものについての捉え方を総合的に考えてみようということを目指しています。一番単純な捉え方としては、いったいつからを老年期というのだろうかということがあります。たとえば、老人福祉法では、65歳以上を老人としています。しかし、個人としてみる時には、どんな条件が揃った（あるいはなくなった）時に「老人だ」と感じるのでしょうか？ つまり、こんな単純なことでさえも、いろいろな角度から検討する余地があるということになります。このようなことを含めて、老年期というものをいろいろな角度から考えてみてください。「どのように捉えるか」という視点をできるだけ生かすようにしてください。

内容は、各自の自由としますが、参考までにモデル的な内容を示しておきます。

- (1) 老年期はいつから始まるか、老年期をどのように分けるか
- (2) 老年期の発達課題と老年期への適応
- (3) 老年期にはどのような変化があるか
- (4) 老人の生きがいは何か
- (5) successful aging（幸福な老い）のための条件は何か
- (6) 現代は、老人にとって生きやすい時代か

もちろん、上記の内容すべてを網羅する必要はありません。考える材料として示したものです。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。
- 2) 応用問題はありません。教科書の内容をしっかりと理解していれば書ける問題です。
- 3) 教科書に書いてあることの中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）がしっかりと書けているかどうか採点のポイントになります。キーワードを覚えましょう。

■参考図書

- 1) 平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅱ 機能の発達』ミネルヴァ書房、1994年
- 2) 下仲順子編『老年心理学』（現代心理学シリーズ14）培風館、1997年
- 3) 原千恵子・中島智子著『老年心理学（心理学の世界 専門編2）』培風館、2012年

- 4) 『生涯発達心理学とは何か——理論と方法』(講座生涯発達心理学1) 金子書房, 1995年
- 5) 岡本祐子編著 『アイデンティティ生涯発達論の射程』 ミネルヴァ書房, 2002年
- 6) 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編 『ガイドライン 生涯発達心理学』 ナカニシヤ出版, 2006年
- 7) 無藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦編 『発達心理学』(現代心理学入門2) 岩波書店, 1995年
- 8) 無藤隆・子安増生編著 『発達心理学Ⅰ』 東京大学出版会, 2011年
- 9) 氏家達夫・陳省仁著 『発達心理学概論』 放送大学教育振興会, 2011年
- 10) 会沢勲・石川悦子・小嶋明子編 『移行期の心理学——こころと社会のライフイベント』 プレーン出版, 1998年